カウンセラーからのメッセージ

お互いが一緒に育っていくということ

シニア産業カウンセラー　吉田千晶

こんにちは。シニア産業カウンセラーの吉田です。早いものでもう２月ですね。旧暦は現在の２月あたりが新年のスタートだそうです。気持ちも新たに、今年もがんばっていきたいと思います。

先日大正大学人間学部臨床心理学科の玉井邦夫教授の講演を聞いてきました。子供の発達に関する研究をなさっている先生です。一人ひとりの子供に合わせた育児のお話がテーマで、とてもよい講演でした。その中でも特に印象に残っているのは、

① 人間は誰でもその人の世界の中で生きている。１回ある見方をすると、無意識の中でそれに固執し、別の見方ができにくくなってしまう。
② 相手が思うようにいかないときには、「どうしてできない」「なぜわからない」「こんなに言っているのに、どうして同じことばかり繰り返すのだ」と自分の視点ややり方を押し付けようとするが、それはひいては虐待に繋がる。相手の視点に降りて、「どうしたらできるだろう」「どうやったらいいだろう」と一緒に考えていくことが大切。
③ 何かを与える時は、その人が理解できるように一つずつ渡していく。目標は具体的で肯定的に、しかも相手に見合うサイズで。

というお話でした。（私のフィルターを通っているので、正確ではないかもしれませんが･･･）

これは育児だけではなく、学校や組織などで行われる指導育成の基本的な在り方ではないでしょうか。今問題になっている体罰などのように、不安や恐怖を煽るような形で指導やしつけという名のもと相手をコントロールしようとする人がいますが、人を動かすときは、相手が希望や期待をもち、やる気を高めるような方法をとることが大切、と言われています。それには、暴言や暴力とは真逆の、相手を認める、褒める、感謝する、その上でフィードバックやアドバイスを与える。ただし先回りせず、本人の力で前進できるように余白を残すことが必要です。

「なでしこの父」と言われる常盤木学園高校女子サッカー部監督、阿部由晴さんが、「指導というのは、お互いが一緒に育っていくこと」と TV で語っていましたが、その言葉を忘れないようにしたいですね。

発行：本山社会保険労務士事務所
杉並区成田東 5－39－11－401　電話　03-6427-7751　　発行年月：平成 24 年 2 月
copyright©2013 本山社会保険労務士事務所